

2025 年度(令和7年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 85	福山市立加茂小学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月15日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校の連携、加茂・山野・浜瀬での定期的な学習をお願いする。 「地域について語れる」児童を育てるための学習を展開してほしい。また、地域の人材発掘も行う。 地域と学校が日常的に連携を取ることが大切である。 小中9年間を見通し、系統性・継続性のあるふるさと学習の内容を検討していく。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇1小1中という環境にあり、学習面・生活面において、つながりをつくりやすい。 〇問いに対する自分の考えを、文章にしていくことに課題がある。 〇友人との関わりや見方が固定化し、互いの新たな可能性や成長に気づきにくい。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力 コミュニケーション力 あきらめない心</p> <p>学びを楽しむ・学びを活かす子ども 夢を語れる・自分のことを語れる子ども</p> <p>①幼保小中連携 子ども・教職員の交流を通して、幼児期から小中学校までの学びをつなぐ。 「幼保小・小中・幼保中」連携した教育活動の実践</p> <p>②地域とともにある学校 学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る。 地域素材を活用した教育活動の実践</p>
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>〇自分のため、社会のために、仲間とともに、地域とともに、未来をつくることのできる、夢を実現する力を育てる学校</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>課題発見・解決力</p> <p>〇自分で、みんなで、取り組む中で、課題を見出し、解決の形を考えることができる。 〇解決するために、方法を考え、取り組むことができる。 〇取り組みをふり返り、また考えたり、取り組んだりすることができる。</p>	<p>コミュニケーション力</p> <p>〇様々な表現方法で、自分の考えや思いを伝えることができる。 〇相手の考えや思いを聞き、相手のことを尊重することができる。 〇自分で、みんなで、取り組む中で、新しいことや新しい価値を考えることができる。</p>	<p>あきらめない心</p> <p>〇「やってみよう」とする意欲をもつ。 〇他に何か方法がないか考えることができる。 〇友達に声をかけたり、応援したりすることができる。 〇自分で決めたことを工夫改善しながら続けることができる。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>ともに 学び合い 高め合う</p>	<p>現状</p> <p><児童生徒> 〇明るく、素直な児童生徒が多い。 〇学習意欲のある児童が多く、自分のやりたいことに取り組む児童も多い。 △不登校傾向の児童が多い。 △学習面では、「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。</p> <p><授業> 〇全国学テの結果分析・主体的な学びの推進のため「任せる、考える・読む・書く」授業を実践した。児童に何を任せるのか、授業で何を考え、何を読み、何を書くのかという視点での教材研究や授業観察を行い、教師間の対話が増えた。児童の「書く」意欲も増えている。 △条件に沿って「書く」ことに課題がある。 △言葉がもつ意味を理解していない。</p>	<p>研究</p> <p>テーマ 学びを楽しむ、自ら表現する児童の育成</p> <p>内容等 〇国語科・算数科・体育科・総合的な学習の時間・幼保小中連携を柱として ・主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ・授業の本質をとらえた授業づくり</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>① 児童が自ら問いを立て、学習を深めたり、広げたりする授業 ② 児童が自ら学び方を自己決定し、目的を持って学びに向かう授業 ③ 友達との対話や協働的な体験を通して、課題解決を図る授業</p>	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力せい	達成	改善方策	□指標に係る取組状況	力せい	達成	総合
1	課題解決に向けて取り組み、自ら表現する児童の育成	★	新規・継続	○付ける力を明確にし、教科横断的に学びをつくる。 ○幼保小中連携を図り、授業改善につなげる。	○ことばの力を育てるために、相手や目的意識をもって書く活動を仕組む。 ○学年のつながりを意識し、カリキュラム作りに活かす。	○文章構成や相手意識を持ち、書くことができる。 85%以上 ○学期末テスト国・算(思考・判断・表現)到達率80%以上								
1	安心して楽しく過ごせる、学べる環境づくり	★	新規	「あいさつ」「掃除」「そろえる」に取り組む中で、生活基盤を向上させる。	○児童会や委員会を通して子ども主体の取組活動にし、生活力のレベルアップを図る。	○自分たちの学級・学校生活をよりよく変えることができる。 80%以上								
1	主体的に運動に取り組む力の向上	★	新規	運動に親しみをもち、進んで体を動かそうとする力の育成	○体育の学習において、運動量確保を図る。 ○授業、遊びから、学級レク等で様々な運動遊びを提示する。	○持続力、跳躍力が高まっている。 80%以上 ○運動が楽しい。 90%以上								
2	教職員が生き生きと働ける環境づくり	★	継続	○自ら研究と修養に励む教職員集団を育成する。 ○時間と質を意識した業務を推進する。	○教職員の意欲を重視した取組や研修を実現する。 ○優先順位の見極め、見通しをもった勤務時間の遂行。	○「仕事にやりがいを感じている教職員」90%以上 ○勤務時間外在校時間、月45時間以内の教職員を90%以上にする。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。